地域と病院をつなぐ新しいコミュニティスペース

連携通信

シリーズ　がん集学治療センターの紹介

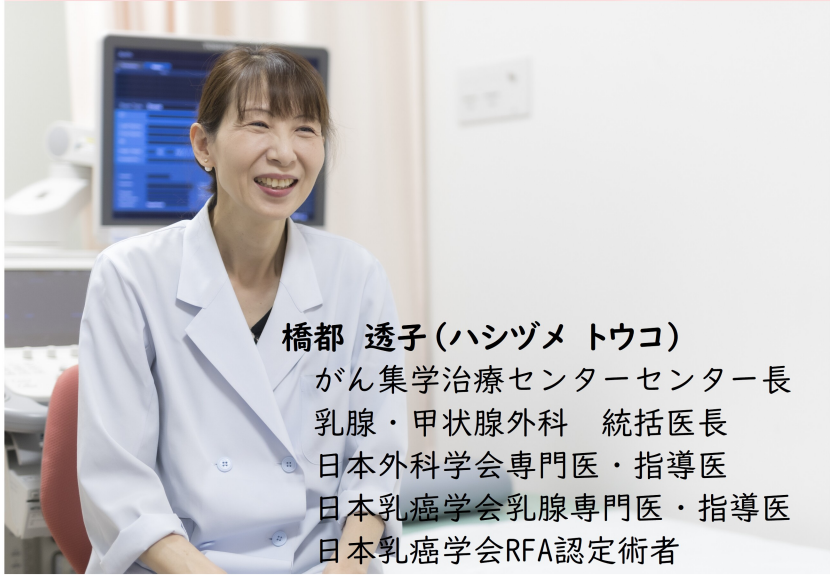
vol.7
2025/8

FACE TO FACE　Vol.7
副院長/医療連携センター長　山本智清

社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院　社会医療法人財団 慈泉会 相澤東病院

がん集学治療センター長就任のごあいさつ

この度、2025年4月1日付で、相澤病院がん集学治療センター長を拝命いたしました。熊本大学医学部を卒業後、同大学外科医局にて研鑽を積んでまいりましたが、ご縁があり2012年に長野県松本市へ移り住み、相澤病院に勤務しております。



橋都　透子（ハシヅメ　トウコ）
がん集学治療センターセンター長
乳腺・甲状腺外科　統括医長
日本外科学会専門医・指導医
日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
日本乳癌学会RFA認定術者

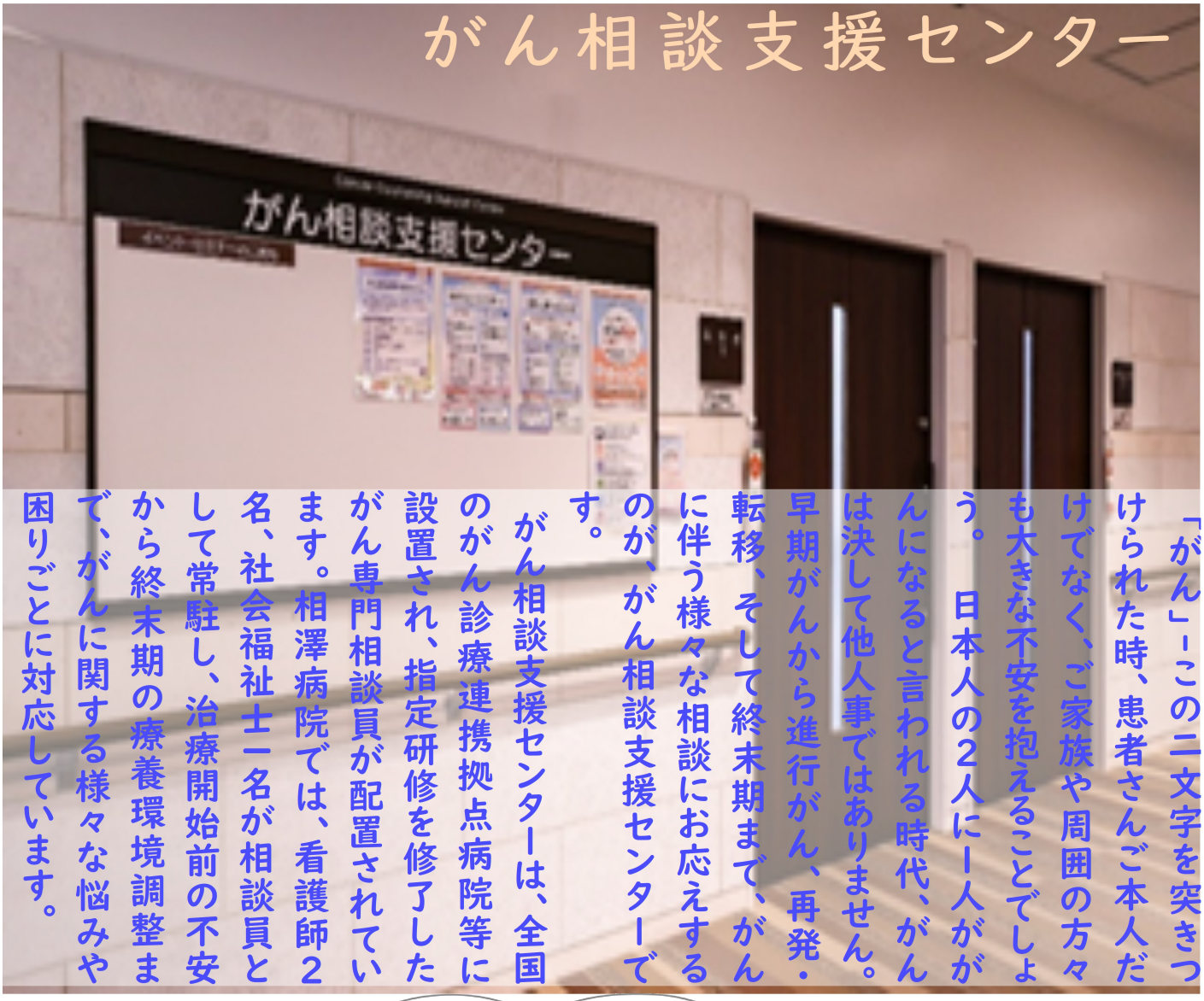
南国育ちの私にとって、松本の冬は厳しく、凍結した路面で転倒することも度々ありましたが、温かい人々に支えられ、気づけば13年もの歳月が流れました。これもひとえにスタッフや地域の皆様のおかげと深く感謝しています。

私の専門は乳腺甲状腺外科です。手術のみならず、薬物療法や放射線治療も重要な治療手段ですが、長期にわたる治療の中で、患者さんのアピアランスや人生のイベントにいかに寄り添い、サポートしていくかは重要な課題でした。かねてより、がん治療においては多職種・多部門間の密接な連携が不可欠であると感じており、この度、三島前センター長よりバトンを引き継ぎ、がん集学治療センター長を務めることになりました。

当センターは、化学療法、放射線治療（ガンマナイフ、陽子線治療、トモセラピー）を主軸としながら、治療方針を決定する遺伝子診療科、安全な治療を支える腫瘍循環器科、患者さんを包括的にサポートする緩和ケア科、腫瘍精神科、がん相談支援センターなどを擁しております。さらに、終末期においてはがん在宅診療科が連携し、患者さんの治療に切れ目なく寄り添い、支える体制を構築しております。また、ご家族を支援する遺族会や、地域のがん教育にも積極的に携わり、多方面からがん医療を支える役割を担っていると自負しております。

今後も、がん集学治療センターが患者さんにとってより良い医療を提供できるよう、その発展と充実に尽力してまいる所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

がん相談支援センター



「がん」－この二文字を突きつけられた時、患者さんご本人だけでなく、ご家族や周囲の方々も大きな不安を抱えることでしょう。　日本人の2人に1人ががんになると言われる時代、がんは決して他人事ではありません。早期がんから進行がん、再発・転移、そして終末期まで、がんに伴う様々な相談にお応えするのが、がん相談支援センターです。

がん相談支援センターは、全国のがん診療連携拠点病院等に設置され、指定研修を修了したがん専門相談員が配置されています。相澤病院では、看護師2名、社会福祉士1名が相談員として常駐し、治療開始前の不安から終末期の療養環境調整まで、がんに関する様々な悩みや困りごとに対応しています。

近くの医院で異常があると言われました。
がんだったら、どうしたらいいのでしょう。

相談は無料・匿名OK!

ある日、相談室の電話が鳴りました。「近くの医院で異常があると言われました。がんだったら、どうしたらいいのでしょう。」

かかりつけ医に通院されている方の奥様からです。相談員は、名前を尋ねることをせず、お話を聞き状況や気持ちの整理をお手伝いします。

がん相談支援センターは、患者さんだけでなく、ご家族、ご友人、職場の方など、どなたでもご利用いただけます。相澤病院に通院されていない方、匿名での相談も可能です。ご相談は無料です。実は、当センターへのご相談の約3割は相澤病院以外で治療を受けている方からの相談です。時には海外にお住まいの方からのオンライン相談もあります。

どんな小さなことでも相談できます

がん治療中は、治療のこと、お金のこと、生活のことなど、様々な悩みや課題に直面します。例えば、仕事と治療の両立、脱毛など外見の変化へのアピアランスケア、子育てをしながらの終末期のご家族の介護など、例を挙げればきりがありません。なかなか決められないこと、どうすればいいか分からないこともあるでしょう。がん相談支援センターでは、お一人お一人のお話を丁寧に伺い、必要な情報提供を行い、一緒に考え解決策を探していきます。時には誰にも言えないつらいお気持ちを、ただ静かにお伺いすることもあります。

同じような経験をした仲間とつながる

「他の人はどうしているのだろう」「誰もこの気持ちを分かってくれない」。診断や治療の過程で、喪失感、怒り、無力感など、周りの人に話せないつらい気持ちを抱える方もいます。同じ病気と闘う仲間、同じ経験をした仲間同士が安心して思いを語れる場として、患者会「ハートサロン」と遺族会「紫苑の会」を開催しています。不安や心配、つらさを語り、分かち合うことで気持ちが楽になったり、新たな気づきを得たりする方もいます。患者会も遺族会も、参加者の半数は相澤病院以外で治療を受けている方が参加しています。

患者さん、家族、地域と連携して

がんは、患者さんだけでなく、ご家族の生活も大きく変えてしまうことがあります。子どもや両親への病状の伝え方、療養生活への不安、看取りへの葛藤など、様々な悩みや課題に直面するご家族も少なくありません。例えば、「精査をすすめられたけれど不安」「自宅で最期まで過ごしたいが、どうしたらいいか」といったご相談も多く寄せられます。がん相談支援センターでは、ご本人やご家族の意向を尊重し、地域医療連携室を通じ、かかりつけ医や地域の医療機関、訪問看護ステーション、ケアマネジャー等と連携して、安心して療養生活を送れるよう支援しています。

がんのことで何か気がかりなことがある患者さんやご家族、知人の方々がおられましたら、是非がん相談支援センターをご紹介ください。

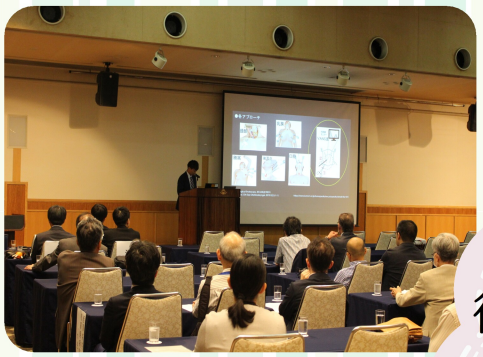
受付時間	平日 9：00～16：30
場所	がん集学治療センター内
相談方法	面談・電話・オンライン
お問い合わせ	0263-33-1251

■　がん患者家族会『ハートサロン』毎月第４月曜日

■　がん患者遺族会『紫苑の会』毎年 11 月第２土曜日

第20回　中信臨牀内科研究会が開催されました

今年で開催が２０回を迎えました。
沢山の先生方にご出席いただきありがとうございました。



乳腺外科・総合内科・
循環器内科・消化器内科
より開業医の先生から
ご紹介いただいた患者さん
を中心に発表させていた
だきました。

「中信臨床内科研究会」が初めて開催されたのは、2005年3月になります。当時、中信地区には、内科疾患(肝・消化管・循環器)の症例について、気軽に集まりディスカッションするような機会が少なく、以前より臨床に即した研究会の発足を願っておりました。そこで、登録医の先生に世話人という形でご協力を頂き、日常診療のなかでの症例を対象に研究会を企画し開催して参りました。途中、新型コロナウイルス蔓延により開催できない年もございましたが、今回20回目を迎えることができました。世話人の先生方、ご出席いただいた先生方には改めて御礼申し上げます。

↓↓始まった当初の写真です↓↓

FACE TO FACE Vol.7

「断らない医療」「まずは相澤病院で診る」ということ

副院長/総合内科統括医長
医療連携センター長
山本 智清（やまもと ともきよ）

◆相澤病院赴任から副院長就任へ

出身は兵庫県西宮市で、相澤病院には赴任して20年が経ちます。滋賀医科大学卒業後、市中病院で研修を行いました。その時の先輩から「医師として、何か専門を持っていた方がいいよ」とアドバイスを受けたこともあり、消化器内科への道に進むことになりました。

そして、内視鏡検査の修行のため、全国でみても多くの検査が行われていた相澤病院へ着任致しました。当時、宮田和信相澤東病院長、五十嵐亨先生、薄田誠一先生には特にお世話になり、ご指導賜りました。初めは5年程度のつもりでしたが、新しい治療法なども出てくる中で10年が経ち、やっと一人前になれた気がしました。その後、消化器内科統括医長、研修医の受け入れ先である医学研修センター長を務め、総合内科の立ち上げも行い、昨年より、副院長を拝命し、本年4月からは医療連携センター長も兼務させていただくこととなりました。

◆総合内科統括医長として

国は、高齢化が進む中で総合診療専門医の重要性を謳っていますが、私が総合内科に興味をもったのは、当時救急医のマンパワーが足りていない時期があり、救急科のサポートを行ったことがきっかけです。24時間

365日救急患者を受け入れる当院において、総合診療的に内科疾患を診れる診療科があった方が良いと思ったこと、当時医学研修センター長も務めていたことから、研修医の育成において、専門医の勉強の前段階で基本的で幅広い知識を身につけてもらう環境にも繋がると考え、2017年に総合内科を立ち上げました。

総合内科では、熱が2週間以上持続する、あちらこちらが痛むが原因が今ひとつはっきりしない、体重が減ってきた、など診断が難しいときに私達が最も力を発揮できると考えています。院内各専門科と協同し、また相澤病院の充実した検査機器を用いて、診断し、治療に結びつけていきますので、何かお困りの際はお気軽にご紹介いただければ幸いです。

◆医療連携センター長として

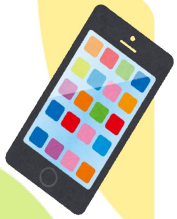
社会情勢、医療体制の変化がある中でも、相澤理事長の理念である、**「断らない医療」、「まずは相澤病院で診る」**ということを肝に銘じていきたいと思います。また、宮田相澤東病院長、池田特任推進役が築いてきた開業医の先生方との連携の基盤を崩さず、さらに連携を深めていけるよう努めて参ります。

ご紹介いただく中で、入院治療後良くなって元の生活に戻れることを目標に頑張っていますが、我々の力不足もあり、なかなか全てが元通りになる方ばかりではありません・・・。そのような患者さんが、人生の最後の時間をどのように過ごしてもらえばいいのか本人・ご家族はもちろん、かかりつけの先生方と相談しながら、希望を叶えられるようにしていきたいと思います。

時には、かかりつけの病院や、居住地など考慮し、しっかりと患者さん・ご家族に同意を得た上で、連携している他の病院へ紹介するケースもありますが、近隣病院との連携も密に行っていきたいと思います。

今後も、この地域で必要な治療が受けられる体制を守っていきたいと思っています。引き続きご指導の程よろしくお願いします。

“あなただけの健康パスポート「NOBORI」のご案内



相澤病院・相澤東病院・相澤健康センターでは PHRサービス「NOBORI」を導入しています！

NOBORIは、ご自身の健康と医療に関する情報を
一手に管理できる“あなただけの健康パスポート”です。

どんなことができるの？？

相澤病院・相澤東病院・健康センターで行った画像や検査結果、お薬などの医療情報はもちろん、「マイナポータル」との連携により、予防接種、妊産婦・乳児・幼児健診、特定健診などの情報までスマートフォンで簡単に確認できるようになります。
ご自身の医療情報を、ご家族やかかりつけ医療機関と共有することもでき、健康管理や通院時の情報提供に役立ちます。

お知らせや日々の活動が見れます！是非ご覧ください！

相澤病院　　救命救急センター　　看護部　　JAMS

編集後記

日本の病院の約7割が赤字と言われる中で、相澤理事長が日本病院会会長の立場でYouTubeチャンネルを開設されました。「病院医療の崩壊カウントダウン」などショッキングテーマで医療業界の現状を分かりやすく語り掛ける内容です。是非ご覧頂ければと思います。